

## ドクターNAKAMURAの 健康道場



### Vol.66 ブリンクマン 指数って？

「して、無事勤務はできておるか？」  
「はい。皆に迷惑をかけないレベルでは仕事ができるようになったかと。」  
和尚の問いかけに、肺癌の抗癌剤治療の後大きな不安を抱えて職場復帰したばかりの古川が心境を答える。  
「今が永遠に続くと良いの〜。」  
「私もそのように願っています。」  
「しかし、現実には酷じゃ」  
「えっ！」  
「主はタバコを何年間吸うた？」  
「高校の頃に興味本位で初めましたので、28年になります。」  
「長い間吸うてしもたの〜。」  
和尚が意味深に遠くを眺めて呟く。  
「……………」  
「1日に何本吸うとったか？」  
「2箱ぐらいでしょうか？」  
「ブリンクマン指数というものを知っておるか？」  
「…………… すみません。よく分かりません。」

「1日に吸うたばこの本数と吸ってしまった年月をかけたものじゃ。400を超すと肺癌のリスクが上がる。」

「私は1120になります。」

「やめて！もういいじゃない。済んだことなんだから、古川さんを責めるのは止めてください。もう立派に禁煙しているんだから。」

姫が無想空間の中の緊張感に耐え切れず、和尚に嘆願する。

「肉体が感情の波にさらわれる時が来ると良いの〜。姫。現実には残酷じゃ。過去の清算をしようとしてもできない現実がある。そもそも病気になるという事は、先祖から受け継いだ遺伝子によるキャパシティーと自分が好き勝手にしてしまった肉体への負担との足し算で一線を越えれば発病する。一線を越えなければどのようにでも融通が利く。これが現実じゃ。」

「それが古川さんとどのように関係するのですか？」

「主は若いの〜。主のような感傷で未来が変われば誰も苦勞はしない。」

煙に撒いて和尚が答える。

「古川さ〜ん！！。」

姫が縋るような思いで声をからした。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一